



いれ流りひびきなりとの
ていけんよむるわひつ
年十三のうちにして
四月こくをよめせく
ひきぬりといふこと
二 仔細は七条のまこと女の
わいぬまのくうふさな
りまをうつりぬり
そ中よありひびきの
せしくわのちやうとま
西家集のけひこそがも
あれふともありひびわ
よなうちのせいでぬ
い作者まらんとせん
ひつやうとせいでぬ
れりうにたおとせいで
のゆふともひびき
三 年のぬれありとも
くのあつ



仔細は七条のまこと

二 仔細は七条のまこと女の
わいぬまのくうふさな
りまをうつりぬり
そ中よありひびきの
せしくわのちやうとま
西家集のけひこそがも
あれふともありひびわ
よなうちのせいでぬ
い作者まらんとせん
ひつやうとせいでぬ
れりうにたおとせいで
のゆふともひびき
三 年のぬれありとも
くのあつ

五曜文庫
蔵書

五九上

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



けがらひのきくまゝに... びりあ

り... びりあ

と... びりあ

い... びりあ

解... びりあ

る... びりあ

け... びりあ

見... びりあ

幅... びりあ

時... びりあ

その山... びりあ

き... びりあ

或... びりあ

九... びりあ

な... びりあ

く... びりあ

ら... びりあ

た... びりあ

く... びりあ

を... びりあ

も... びりあ

へ... びりあ

人... びりあ

今... びりあ

今... びりあ

今... びりあ

今... びりあ



なごそくくあふがこみよぬよりんれりしはとをひしこのよ

貞觀十二年二月貞明親王為皇太子十時高子為女御依春宮御母号
去年十二月十八日誕生高子年サセ

七五

青ま交の女御の而くは花の繁よりあつまらま
あつまら 花よわぬまげをいかりとせうまもまのいよひのいひは

ひうまをこいかりたりなる女よりり

まきりひれとをりおとわてつりさかのなうみあ

若ま交のうちむくあつまらなるつがいのまへいひま

まろよがふふあひまひんさしやあまのいひま

むらがるんこいひま

はまのいひまをいひまのいひまのいひま

とひまをいひまのいひまのいひま

ひまのいひまのいひまのいひま

十三

一日

女

女

女

女

わらうらりなり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 さへひきひき。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 げり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら

質陽記に植哉身七母夫人多治比良三品治平貞親十二年十月八日薨七十八

あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 さへひきひき。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 げり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら

あきまへにわら

あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 さへひきひき。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 げり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら

あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 さへひきひき。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら
 げり。あきまへにわらをたねたてり。あきまへにわら

